



多国籍河のライン

金祝・ドイツの旅⑫

ケルン大聖堂を見た ライン河はドイツを  
あと、車でライン河沿い 流れるもう一つの大河、  
を上り、フランクフルト ドナウ河には及ばない  
に向かう。 が、スイスから六カ国

を流れる全長千三百二十キロの大河。もう一度詳しい地図を掲載する。

も面白い。この流域、中世には多数の小領主が分立して城を築き、その多くが今も残っている。

山頂から見たローレライ (23年前写す)

イドに聞き、残念に思うことを思いだす。

今回も対岸を車で通り過ぎただけ。長女が世界三大ガツカリの二つがローレライと笑う。もう一つはベルギーの小便小僧、それにデンマークの人魚だったかどうかは定かではない。

日本人の運転手はスピードを緩めるでもなく、いつも簡単に通り過ぎた。私が運転手を

歴史を持  
が良い。  
日本人  
心を察し  
の手前の  
街並みを  
た。木組  
しい。学  
はさすが  
調べてお  
入つてワ  
て出て来  
ブドウ畠

建設され、長い  
つ街並みの方  
運転手も私の  
てか、マインツ  
バッハラッハの  
を見せてくれ  
みの建物が美  
者である長女  
によく事前に  
り、小さな店に  
インを一本買つ  
る。そういうば  
私が郊外一面に  
をも得ず

ている。この流域のワインの産地と有名らしい。



藤屋 倪士  
(下松市幸ヶ丘)

を流れる全長千三百二十キロの大河。もう一度詳しい地図を掲載する。も面白い。



山頂から見たローレライ (23年前写す)



中ライン河沿いの街、バッハラッハ